



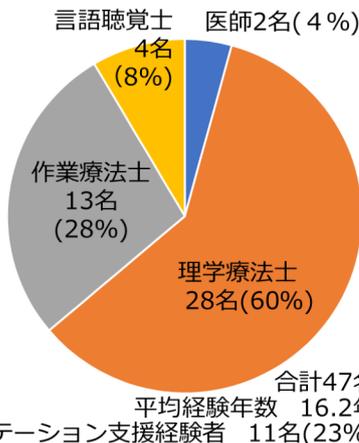
ISSUE 5 | 2026/3/1

佐賀関大規模火災にてJRAT活動を行いました

火災発生からの経過

- 11月18日 夕方 火災発生
19:30頃 指定避難所を開設 (佐賀関市民センター)
- 11月19日 災害救助法が適用
約175人 (約115世帯) が避難
- 11月20日 県より派遣要請
大分JRAT活動開始
継続支援のためマッチング作業も同時進行
- 11月28日 半島鎮火
- 12月4日 鎮圧 建物被害187棟
- 12月12日 大分JRAT活動終了
- 12月26日 避難所閉鎖

※大分JRATは23日間のべ112名が活動

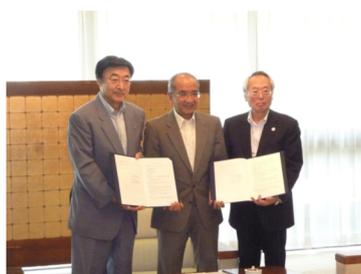


大分JRATの沿革

平成28年4月に発災した熊本地震を機に組織化を開始
平成28年5月、大分JRATとして発足
平成29年5月、大分県との協定を締結
以降、下記の通り、県内外で発生した災害に対し、支援活動を行なっている

支援実績

- 県内支援
 - 平成29年 九州北部豪雨
 - 令和7年 佐賀関大規模火災
- 県外支援
 - 平成28年 熊本地震
 - 平成30年 西日本豪雨
 - 令和6年 能登半島地震



大分JRATより 現地での活動の様子

フェーズ1 (火災発生～10日前後)

大分県より要請を受け火災発生から2日後の急性期から現地での活動を開始しました。局所的な災害のため、避難所のライフラインは保たれていましたが、多くの避難者の方が避難してこられたため、避難者の生活スペースや避難所内の環境整備を中心に支援を行いました。



避難所の環境整備



居住スペースの環境整備

フェーズ2 (11日目～17日目)

避難所生活が10日を超え、感染症の蔓延、不活発による運動機能の低下や健康状態の悪化、DVTの懸念などが避難所全体の課題として挙がってきました。そこで、他支援団体と協働して運動機能のアセスメントやリハビリテーションリアージ、運動機会の提供などの支援を行いました。また、JRATに所属する医師により、DVTの評価や予防のための指導を行いました。



DVTアセスメント・エコー検査



館内放送を利用してラジオ体操を実施



他団体と協議・協働でのアセスメント



集団体操・運動指導・通いの場の立ち上げ

フェーズ3 (18日目～23日目)

平時の地域リハビリテーションへ移行するため、地域・行政とのロードマップを作成。避難所内対応・通いの場の引き継ぎ先を検討しました。事業対象者をスクリーニングし、地域包括支援センターへ繋ぎ、支援終了となりました。



JRATは賛助会員を募集しています！

既にご支援いただいている賛助会員

医療機関

医療法人創和会 しげい病院
社会福祉法人聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院
医療法人博仁会 志村大宮病院
NTT東日本伊豆病院
一般財団法人新田塚医療福祉センター 福井総合病院
一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院
社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
社会医療法人寿量会 熊本機能病院
社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院
特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター
医療法人行陵会 京都大原記念病院
藤田医科大学医学部 リハビリテーション医学I講座
南相馬市立総合病院
医療法人社団アルペン会 アルペンリハビリテーション病院
特定医療法人財団博愛会 博愛会病院
社会医療法人寿人会 木村病院



賛助
施設

日本災害
リハビリテーション
支援協会

企業など

日本介護支援専門員協会
九州文化学園
パラマウントベッド株式会社
株式会社 三輪書店
フランスベッド株式会社
全国労働者共済生活協同組合連合会（全労済）
サントル株式会社
アビリティーズ・ケアネット株式会社
株式会社ダイセル セフティSBU
インターリハ株式会社
富士フィルムメディカル株式会社ニュープロダクト事業部
ニチバン株式会社
徳武産業株式会社

2025年9月2日現在

個人

NTT東日本病院病院長 安田 秀 (敬称略)

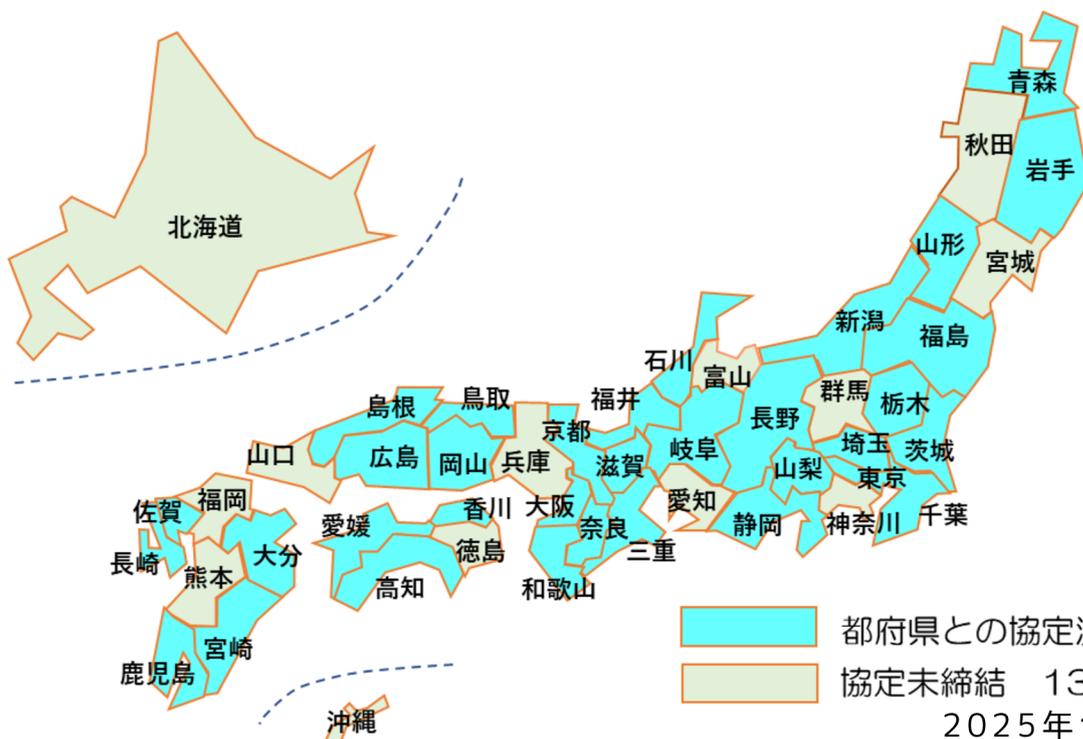
賛助会員ご入会のお願い

https://www.jrat.jp/images/pdf_nyuukai.pdf



JRATは

人材育成そして地域JRATと行政との協定締結を推進します



2025年11月25日現在

事務局

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目4番2号一広グローバルビル5階

Email: jrat-office@jrat.jp (★を@に変更して送信して下さい)

URL: <https://www.jrat.jp>

